

青い海と みどり豊かな 平和都市

広報

ずし

2022

6

NO.964



ぜひお立ち寄りください

リニュアル1周年 /





「働く」から考える

障がい理解

「障がいがあっても当たり前働きたい」

この思いをかなえるためには、一人一人に合った働きやすい環境を作り、誰もが一緒に働くことができる共生社会の実現が欠かせません。今回は、働くという視点から障がいのある人への理解を深めます。 **問**障がい福祉課

共生社会を目指して

障がいのある人にとっても、働くことで収入を得て自立した生活を送ることは大切なことです。また、仕事を通じて社会の役に立っていると感じたり、自分の成長や活躍に喜びを見いだしたりと、働くことは毎日を豊かに過ごすために必要なことです。

市内には障がい者向けの就労支援施設がいくつかあり、それぞれの障がい特性に合わせた仕事が提供されています。一方、一般企業での就労はなかなか進んでいないのが現実です。市では、障がいのあるなしに関わらず誰もが安心して働くことのできるまちづくりを進めています。

身近なところから障がい理解 就労支援施設での仕事

意外と身近なところにある仕事の間。障がいのある人の働き方を伝えます。

就労支援施設とは？

働くための訓練や準備として、支援を受けながら働くことのできる施設。就労継続支援 A 型事業所、就労継続支援 B 型事業所、地域活動支援センターなどに分類され、障がいの程度により働くことのできる施設が変わります。

販売

就労継続支援 B 型事業所

青い鳥 (mai! えるしい販売所)

時(月)~(金) 11:00 ~ 14:00 問 046-887-0583

「前に買ったクッキーおいしかったよ」と利用客から声を掛けられ、「ありがとうございます」などと会話を楽しむ青い鳥のスタッフ。市役所 1 階のホールにある青い鳥では、7~8 人のスタッフがシフト制でお菓子やお弁当、ジュースなどを販売しています。

仕事は商品陳列から始まり、オープン後はお客様に代金を伝える、受け取る、お釣りと商品を渡すなど多岐にわたります。時には支援員の手を借りることもありますが、コミュニケーションを楽しむスタッフにはいつも笑顔があふれています。

青い鳥での仕事が大
好きです。接客は楽し
くて、たくさん商品が
売れるとうれしいです。



西野優花さん(スタッフ)



洗濯
掃除

就労継続支援 A 型事業所

ワークセンター^{もり}逗子杜の郷

仕事を覚えるのは大変でしたが、洗濯の仕事も掃除の仕事も好きです。将来は、清掃業務で一般就労したいです。



一流ホテルでも通用する仕上がりを目指し、テキパキと働く姿が印象的な杜の郷のスタッフ。併設する高齢者施設の入居者のタオルや衣類の洗濯、リネン交換、施設内清掃などを一つ一つ丁寧にしています。

きれいに畳んだ衣類を利用者に直接手渡すなど、時には交流をすることも。ここでの経験を生かし、次の就労先として一般企業で活躍する人もいます。



飲食

就労継続支援 B 型事業所

キッチンカモミール

時(月)~(金) 9:30 ~ 15:00 問 080-5957-0817

お弁当も販売しています。*ランチは 11:30 ~

高齢者センターの中にあるキッチンカモミールを知っていますか。ここは、センター利用者のためのレストランで、意欲的なスタッフが元気よく働いています。

ランチの下準備、盛り付け、配膳、下膳、食器洗い、掃除など、それぞれが得意な分野で活躍。店内が満席になるほど忙しいときも、うまく連携しながら食事を提供します。常連客も多く、働くスタッフもセンター利用者も元気になれる憩いの場です。

心がこもっていておいしいランチ。栄養バランスも良く、私の健康の源です。



製造

地域活動支援センター

リップル

時(月)~(金) 9:00 ~ 17:00 問 046-872-2524

リップル、青い鳥などで販売しています。

皆さん責任を持って仕事に取り組んでいます。リップルの商品をぜひお試しください。

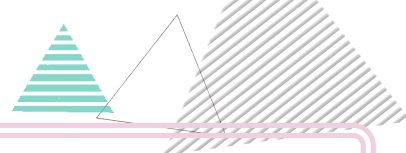
青い鳥に並ぶかわいいリボンがついたクッキーやラスクを作っているのはリップルのスタッフ。生地作り、型抜き、クッキーに入れるレーズンのカット、ラスクの味付けなど、細かな役割分担で手際良くお菓子を作っています。

「いつでもふらっと来て、仕事ができる場所でありたい」という支援員の思いもあり、それぞれのペースを大切にしながら仕事に取り組んでいます。



関谷彩子さん (支援員)





Interview

福祉 × 製菓のプロ ヒット商品を共同製造

共同製造を始めたきっかけは？

橘 mai!えるしい設立後しばらくは、受け継いできたレシピでお菓子を作っていました。ただ、私たちは福祉職員で、お菓子作りは本業ではなく、作ったものを社会に発信していくのも苦手。売り上げも下がっていきました。そこで、当時の施設長が知り合いだった製菓のプロ、(株)3pm・さんじの横田社長に協力をお願いし、テコ入れをすることにしました。

横田 ちょうどその頃は、東日本大震災の影響で大きな仕事がキャンセルになり、時間に余裕がありました。初めは菓子指導として関わったのですが、やり取りをしていく中でもっと協力できるのではないかと感じ、共同での菓子製造をスタートさせました。

どのような役割分担をしているのでしょうか？

横田 私たちの役割は、製造における技術を伝え、商品を発信していくこと。それまでの在庫管理や製造内容、発信の仕方など、全てを見直しました。

橘 一方、私たちはあくまでも障がい者支援が仕事です。横田社長が見直した内容を分かりやすく本人に伝え、彼らができるようにしていくことが役割です。

mai!えるしいは、クッキーなどを製造している就労支援施設。障がいのある人と施設職員、製菓のプロが共同でお菓子を作っています。共生社会の一つの形ともいえるこの共同製造について、話を伺いました。(本文中敬称略)

その一つとして、製造工程の分析を改めて行い工程を細分化、写真や文字で手順を見える化しました。結果、今まで製造メンバーに入れなかった人も製造に参加できるようになりました。例えば、ケーキに粉を振ることだけを手順化し、それができる人を見つけてやってもらう。そうすることで、ケーキ製造には欠かせないこの作業のプロが生まれました。

横田 障がいの特性を知って、それぞれの力を活かせる仕組みを作れば、彼らは立派な戦力。今では、誰一人欠けてはならない共同製造のチームです。

このチームで作り上げた商品は、パンフレットなどを使って発信しています。見える形で魅力的に伝えることで、ファンが増えていきました。そこでつながった地域や企業との関係も大切にしています。

共同製造がもたらしたものは？

橘 発信力などがアップしたおかげもあり、去年は過去最高の売り上げを達成し、2年ぶりにボーナスを出すことができました。頑張りを給与に反映できたことは、本人たちの経済的自立にもつながるため、非常にうれしいことです。

横田 仕事を通じてみんなの自己肯定感も高まり、生き生きと仕事をしているので頼もしく思っています。今では、私の方からmai!えるしいに「組ませてください」と言わずにはられません。



横田美宝子さん
(株)3pm・さんじ
代表取締役/フードデザイナー



一番人気の
マーガレットケーキ



橘 昌邦さん
湘南の凧 mai!えるしい
サービス管理責任者

働きたいと
思ったあなたへ...

就労相談

就労についての相談は障がい福祉課へ。専門の就労支援員が相談・質問などに応え、最適な支援機関につなぎます。

市内には様々な場で活躍をしている人がたくさんいます。働く目的も、働き方も人それぞれです。市では、一人一人に合った就労ができるよう、関係機関と連携しながらサポートしています。



障がい福祉課
就労支援員 中島緑

市役所でも行っています

トライアル雇用

一般就労のきっかけとなるよう市役所で短期間のトライアル雇用を行っています。

自分の得意なこと
と、苦手なことが
分かりました

どの作業を行うときも
集中してできました



▲ファイルの作成



▲消防ホースの片付け

よこすか障害者就業・
生活支援センター

時 8:30 ~ 17:15 * (土)(日)(祝)を除く
場 横須賀市本町 2-1 市立総合福祉会館 4階
TEL 046-820-1933
MAIL yse-10.5@orion.ocn.ne.jp

Message よこすか障害者就業・生活支援センター
施設長 大川佳久さん

ハンディキャップはそれぞれ異なりますが、仕事内容が適していれば、職場の貴重な人材になります。一緒に特性に合った職場を見付けましょう。

事業者向け
情報

障がい者雇用を
始めてみませんか

一般企業での雇用はなかなか進んでいませんが、事業主にもメリットがある障がい者雇用。障がいへの理解を広げ、しっかりとした体制を整えれば、職場環境の改善や人手不足を解消することができます。

雇用報償金

知的障がい者や精神障がい者を雇用する事業主に報償金を支給します。1か月当たり40時間以上の勤務など条件があります。詳細は問い合わせてください。

支給額 障がい者1人につき月額 30,000円

※ 市内在住の知的・精神障がい者を3か月以上雇用し、常時雇用する従業員が100人以下の事業主

職場体験実習の受け入れ

職場体験実習の受け入れで、障がい者雇用のイメージをつかむことができます。実習中は市の就労支援員が付き添いサポートするため、初めて障がい者と働く事業所でも安心して利用できます。

障がい者職場体験実習を受け入れる事業所は随時募集しています。

身の回りの人々や地域の環境、そして自分自身を信じ認めて前向きに生きる市民に、このまちで生きる意味を聞きました。



しちせ オーナー

岩本 仁 さん (市内在勤)

市内で障がい者雇用を積極的に実践している岩本さん。JR返子駅近くに手打ちそばを堪能できる店「しちせ」を開業して9年目を迎える。

仕事を通じて幸せを感じてほしい

岩本さんは、大学卒業後、福祉施設での勤務を経て、特別支援学校の教師として障がいのある人と関わっ

障がい者雇用が当たり前のまちへ

てきた。開業のきっかけはその時の経験から。「高等部3年生の担任をしていたのですが、卒業時に希望した生徒の一般就職がかないませんでした。もっと雇用の場が社会にあればと実感しました」

その後、日本料理の職人だった友人と、縁あって返子で店を立ち上げた。「様々な人と接する機会があるのが飲食店の良いところ。地域で暮らしているのだから、障がいがあっても多くの市民と関わり、仕事にやりがいや幸せを感じてもらいたいと思いました」と振り返る。

手順を示して働きやすい職場に

開業後ほどなくして、就労トレーニング中の女性を雇った。職場環境を整えるため、仕事の手順を細分化して文字などで分かりやすく明示。「今では他の従業員とコミュニケー

ションをとりながら当たり前に行っています」と笑みをこぼす。

「本人の仕事がはかどると、皆が障がいをポジティブに捉えるようになります。職場の雰囲気もどんどんと良くなりました」

ともに働くことを当たり前

「できるならもっと多くの障がい者を雇用したい」と話す岩本さん。しかし、現在の経営状況では1人雇用するのが限界と言う。経営の知識を深めることは障がい者雇用を広げる上で切り離せない課題だ。

一方、障がい者雇用を市内の事業所に広めることにも意欲を見せる。「環境さえ整えれば、雇用できる事業所はたくさんあるのではないのでしょうか。できることは何でも協力したいので、関心がある方はぜひ気軽に声を掛けてほしいです」

現場第一主義

市長だより vol.39

今年の春は行動制限がない大型連休となり、3年ぶりに各地で多くの人々の移動が見られました。新型コロナウイルスの新規感染者数は一定数はあるものの、重症化する人の割合は以前と比べて低いので、新たな暮らしを模索していく段階になってきていると思います。市主催のイベントについても、十分な感染対策をしながら、可能な限り開催できるようにしていく考えです。

今月の特集は盛りだくさんですが、その中でも障がい者雇用については課題であると感じています。障がいのある方は18歳までは学校などで過ごしますが、卒業後に働く場所が限られます。「障がいがあっても当たり前

に働きたい」との願いをいかにしたら実現できるのか考えなければなりません。

他市では、農業と連携したり、工場での作業に従事したりしていますが、ベッドタウンである返子では働く場所が限られています。市内の事業者にも現状をお伝えし、様々な工夫をして雇用の場の拡充に取り組んでいかなければと思います。障がいの特性に合わせて、事業者側の様々な仕事との組み合わせを検討しながら、マッチングを重ねていくことが大事です。働ける仕事・場所が増えるよう、みんなの知恵を集めましょう。

* 今回の市長だよりは5月13日に執筆したもので、発行日の時点と状況の変化があることも想定されますので、ご了承願います。

返子市長 桐ヶ谷 覚